

研究課題

自家末梢血幹細胞移植施行多発性骨髄腫におけるマルチパラメーターフローサイトメトリーによる微小残存病変の検出法の確立:次世代シーケンサー法との比較検討

研究の目的

造血幹細胞移植や新規薬剤治療によって、多発性骨髄腫の一部の患者さんでは腫瘍細胞が極めて微量になる分子的完全寛解が達成されるようになった結果、微小残存病変検出の重要性が増している。本研究では、マルチパラメーターフローサイトメトリー(MFC)法(EuroFlow法など)や次世代シーケンサー法(NGS)による骨髄腫の高感度微小残存病変検出法を用いて、日本での保険診療での実施可能な診断法を確立することを目的としています。

対象

症候性多発性骨髄腫と診断後、寛解導入療法が施行され、大量メルファランの前処置後に、自家末梢血幹細胞移植が施行された症例のうち、移植後 100 日以降の評価にて完全寛解以上の治療効果が確認された患者さんです。さらに、自家移植後にレナリドマイドによる維持療法が施行されている患者さんです。

方法

(a) 患者さんには診療としての骨髄検査時には骨髄液を 4ml 多く採取させていただき、微小残存病変の有無を調べさせていただきます。

(b) (a)の骨髄を余分に 4mL 採取するのは、①自家移植後 100 日目から 300 日以内、②自家移植後 1 年後、③自家移植後 2 年後の合計 3 回です。

研究成果の帰属と結果の公表

本研究結果は、匿名化し対象者個人の同定が出来ない状態とした上で、学会発表や原著論文の形式で公表します。

連絡先

本研究に関する連絡先は以下の通りです。本研究は匿名化データを使用していますので、個人情報漏洩の危険はありません。本研究に疑問のある方は遠慮なくご連絡ください。

2016 年 5 月 10 日

金沢大学医薬保健研究域医学系 高松 博幸

〒920-8641 石川県金沢市宝町 13-1

電話: 076-265-2276, Fax: 076-234-4252